

2-7 労働環境

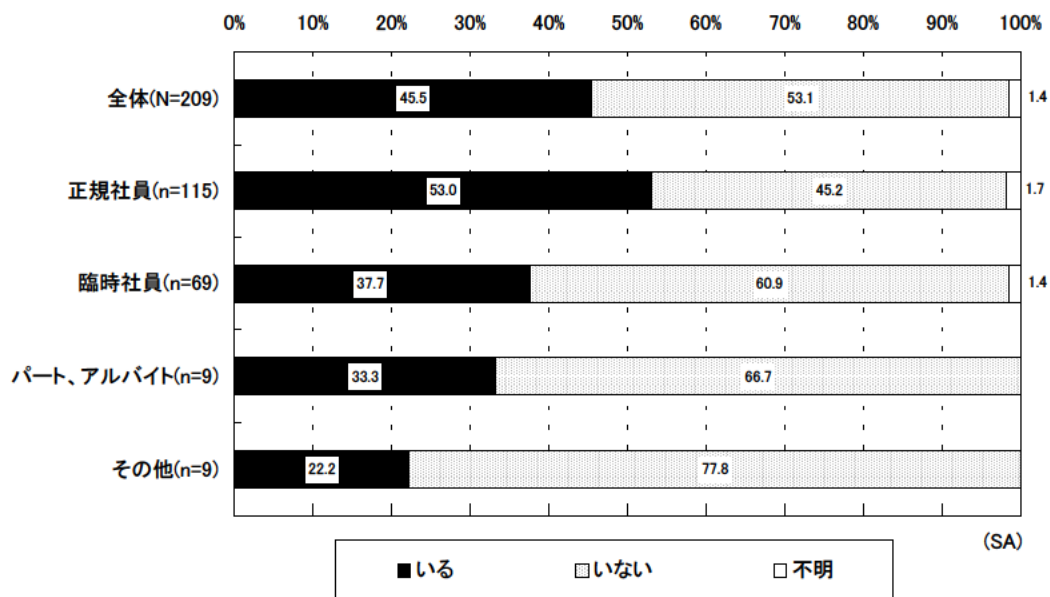
(1) 母国語を話せる日本人

<全体>

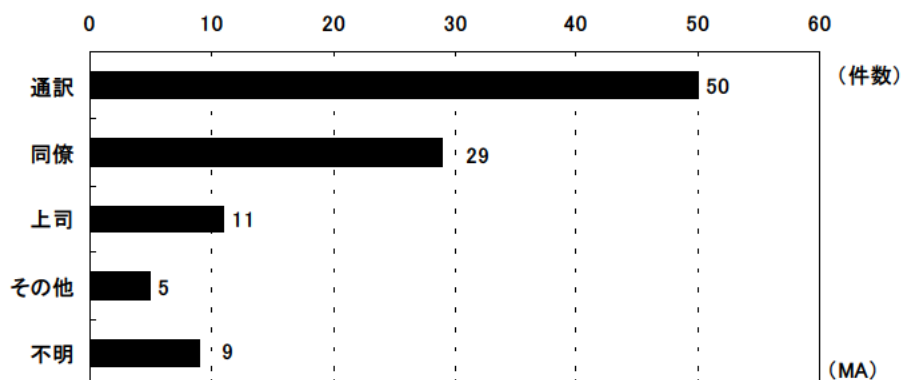
企業に母国語を話せる日本人が「いる」と回答した割合は 45.5%で、「いない」と回答した割合 53.1%より少ない。(母国語を話せる日本人としては、通訳、同僚、上司の順に多い)

<就労形態別>

就労形態別にみると、「いる」と回答した割合が、正規社員では 53.0%で半数を超えているが、臨時社員では 37.7%、パート・アルバイトでは 33.3%と低い割合になっている。



「いる」と答えた人の内訳



○質問

企業にあなたの母国語を話せる日本人はいますか(単一回答、いる場合具体名)

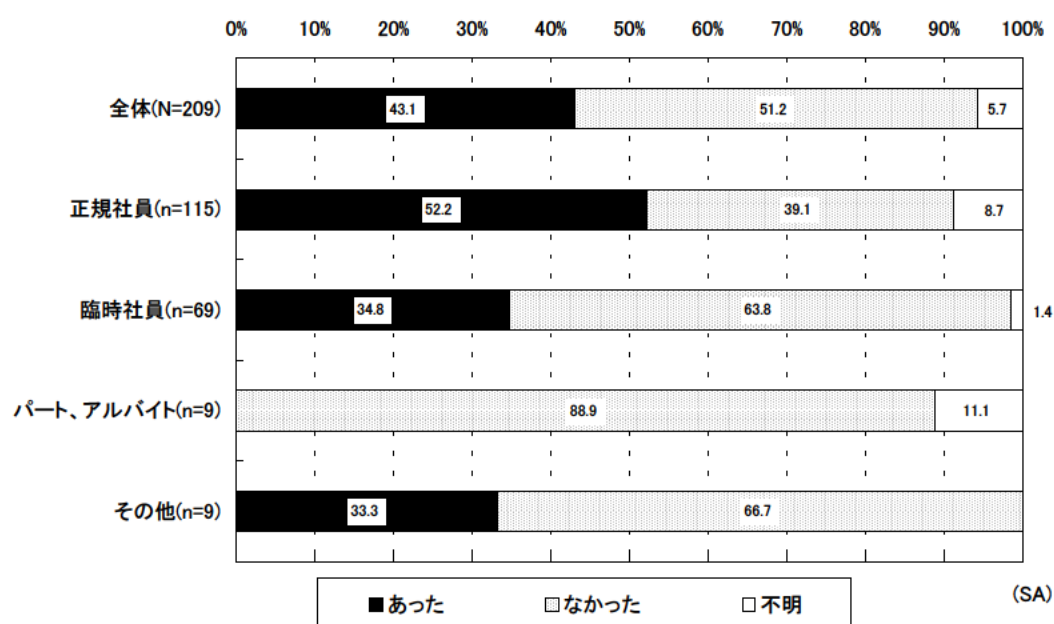
(2) 生活上必要な事項の説明

<全体>

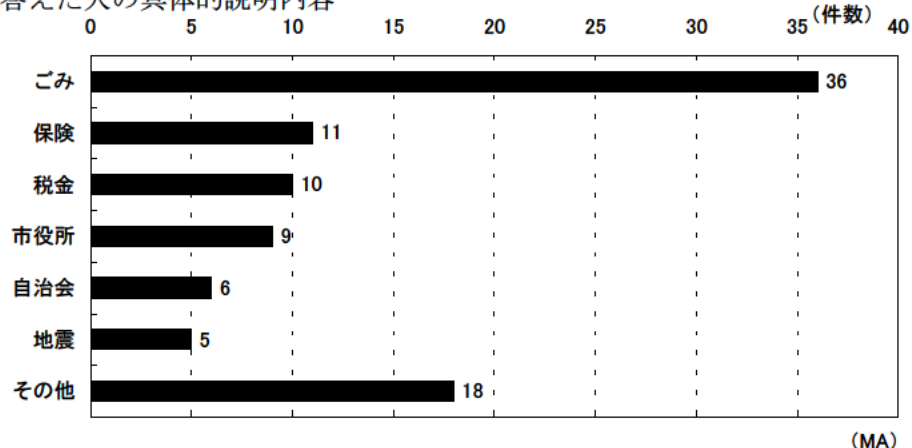
企業から生活上必要な事項の説明が「あった」と回答した割合は 43.1%で、「なかった」と回答した割合 51.2%より少ない。(説明の具体的内容としては、ごみに関する件数が最も多く、次いで保険、税金、市役所に関する件が多い)

<就労形態別>

就労形態別にみると、「あった」と回答した割合が、正規社員では 52.2%で半数を超えているが、臨時社員では 34.8%と少なく、パート・アルバイトでは説明が「あった」と回答した人がいない。



あったと答えた人の具体的説明内容

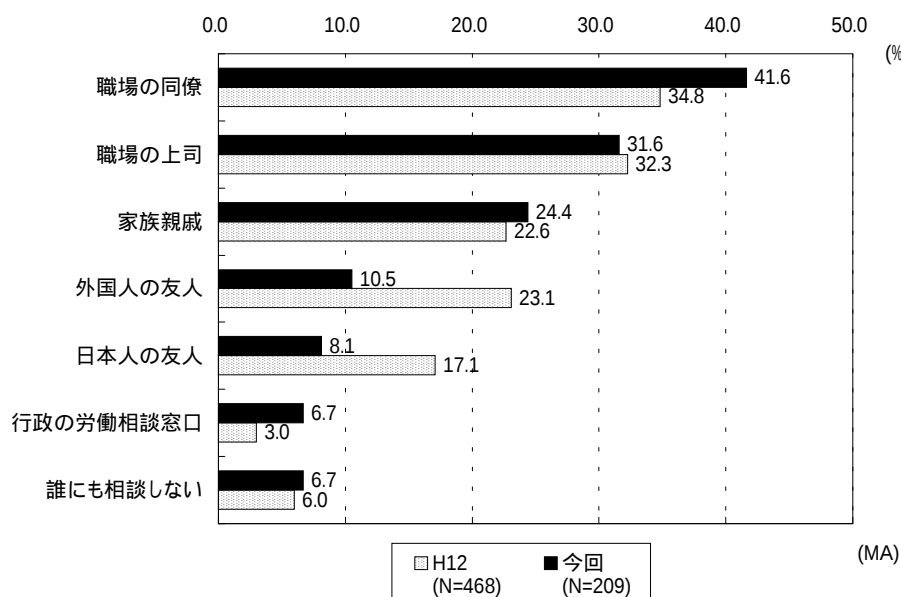


○質問

企業から生活上必要な事項の説明はありましたか (単一回答、あった場合具体的内容)

(3) 悩み相談相手

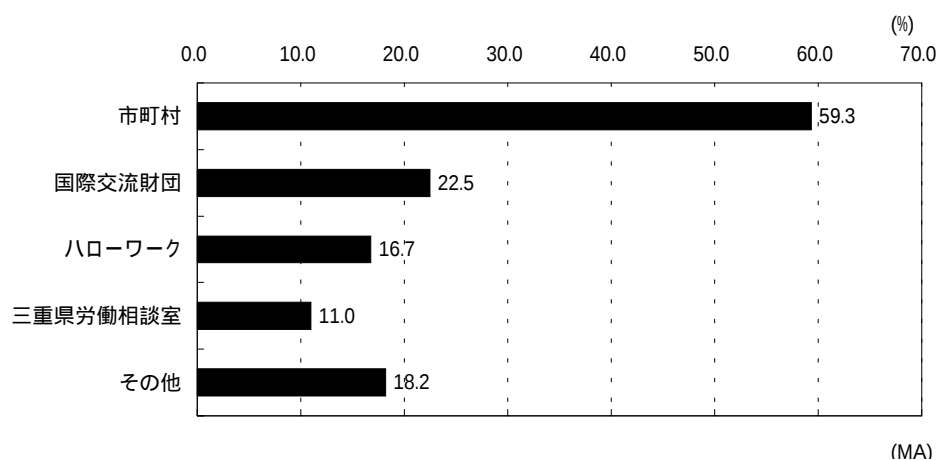
仕事の悩みの相談相手としては、職場の同僚が最も多く 41.6%、次いで職場の上司 31.6%、家族親戚 24.4%となっている。H12 と比較すると、友人（日本人及び外国人）を相談相手とする割合が大きく減少している。



○質問 仕事の悩みは誰に相談しますか（複数回答）

(4) 外国語の相談窓口

外国語の相談窓口としては、市町村が最も多く 59.3%、次いで国際交流財団 22.5%、ハローワーク 16.7%となっている。（その他では、アンケートの配布回収の委託先である NPO 伊賀の伝丸、UBJ（絆・ブラジル・日本）の他に、学校、財団法人鈴鹿国際交流協会、などが挙げられている）



○質問 外国語の相談窓口を知っていますか（複数回答）